

平成17年5月10日
海上保安庁

問い合わせ先
海洋情報部 海洋調査課
課長補佐 矢吹哲一朗
TEL:03-3541-3815 (内線621)

福岡県西方沖地震の震源域海底の調査結果(中間報告)

海上保安庁では、3月20日に発生した福岡県西方沖の地震(マグニチュード7.0)の震源域の周辺海底の調査を実施しました。

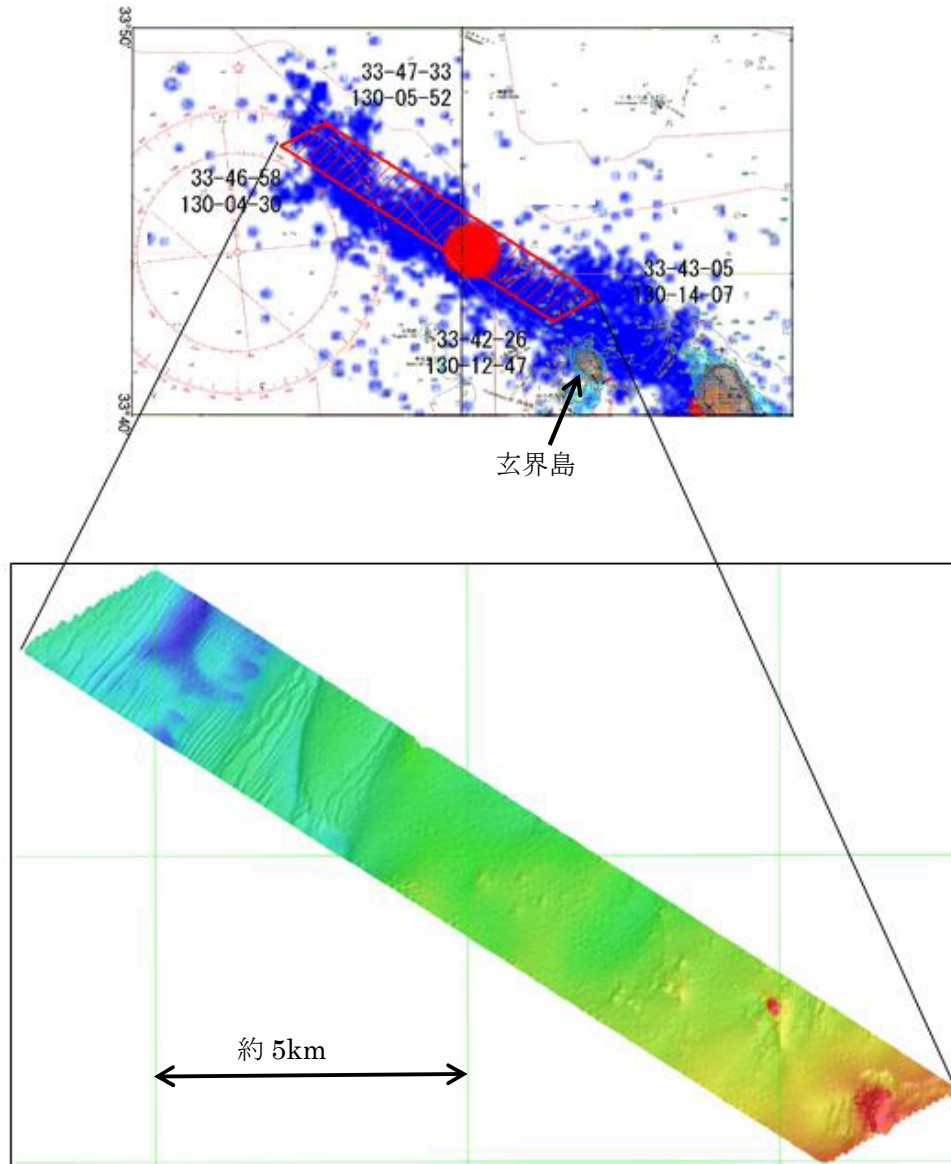
これまでの調査結果から同海域の詳しい海底地形が明らかになりました(別紙)。また、音波探査により海底の地下構造に関するデータも得られています。しかし、現在のところ、地震断層の変位が海底面にまで達した形跡は見つかっていません。

この地震の震源域が博多湾の北西の海域にあり、断層の変位が海底にまで達しているかどうかを明らかにし地震の性質をより詳しく解明するために、海上保安庁は海底調査を実施しました。

海上保安庁では、地震発生後から震源の周辺海域において測量船「はやしお」(第七管区海上保安本部所属、総トン数30トン)により海底地形調査を実施しました。また、4月～5月には、測量船「明洋」(本庁所属:総トン数550トン)により海底の地下構造調査を実施してきました。

これまでに得られた結果では、地震断層の変位が海底面まで達した形跡は見つかっておらず、断層の変位が海底面まで達していた可能性は低くなりました。海上保安庁では、今回の調査結果(中間報告)を、5月11日に開催される地震調査研究推進本部の地震調査委員会に報告します。今後は、海底地形の追加調査を行なうとともに、これまでに得られたデータの詳細な分析をすすめ、海底に変動が生じているかどうかをさらに精査する予定です。

全体図海底地形図



福岡県西方沖地震の本震の位置（上図の赤丸）及び余震の分布（上図の青丸部）と今回の調査で明らかになった詳細な海底地形（下図）。余震分布は、防災科学技術研究所の資料による。

海底地形では、もっとも浅いところ（図の赤い部分）は、水深およそ7メートル、もっとも深いところ（下図の濃い青の部分）は、水深およそ57メートルに相当する。

調査区域の北西部に現れている筋は、海潮流による砂の堆積地形（サンドウェーブ）と思われます。